YCU 第２クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	**M.A**	**学部・学科**	**国際教養学部・国際教養学科**
学 年	**4**	**派遣国**	**マレーシア**
派遣大学	**アジアパシフィック大学**		
コース名	**第２クウォータープログラム**		
期 間	**2026 年　8 月　2 日～　2026 年　8 月　30 日**		

（１）授業や課題、演習はどのような内容であったか。（800 字程度）
（可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい）

・授業は午前がスピーキング、リスニングのクラスで、午後がリーディングとライティングのクラスで、授業時間は約 120 分である。
・15～21 歳のロシアとカザフスタンの留学生、中国とアラビア系の現地の学生合わせて 20 人強のクラスで構成されている。
・全体的にアクティビティ中心で、グループワークと簡単なプレゼンを数回行い、スピーキングやライティングを学んでいく。
【speaking・listening】
・教科書とワークシートを中心に授業を行う。
・課題は教科書を見開き程度。
・内容は中学英語から高校英語まで
・リスニングは歌詞の聞き取りやリアルな会話のシーン、映画のワンシーンの内容の聞き取りなど、実際に使われている場面が多い。
【writing/reading】
・リーディングは教科書、ライティングはワークシートとグループワークを中心に行う。
・ライティングは、introduction、body paragraph(メインアイディアが 2 つとそれを補強する例を 3 つずつ)、conclusion の書き方を指定され、トピックに対する advantage と disadvantage のどちらかを書く。
・主にグループワークで行い、3 人で 1 つのエッセイを考え模造紙に書き、先生から添削してもらうという流れであった。
・課題は比較的多く、リーディングはワークシート、ライティングは A4 サイズのエッセイが出された。
その他に、OEL というオンラインの課題も出され、これは期限までに指定されたトピックまでを終えなければならず、移動時間や放課後など少しずつ進めていった。

（2）授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

・担当教員がイギリス英語とアクセントを持つ英語で話しているほか、歌詞の穴埋めやカジュアルな会話を用いたリスニングの演習を行ったため、多様な英語に対するリスニング力が向上したと思う。
・グループワークにおいて、日本出身と海外の学生の間で課題に対する考え方や発言のスピード感に違いがあった。日本人は正確性と論理的思考を重視する傾向にあり、その他の学生はアイディアの多様性と迅速な発言を重視する傾向にあった。

（3）授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は、英語力、自分の年齢、大学名を気にせずに自分に合った等身大の学習をしたいと考え留学に臨んだ。
実際、配属されたクラスは同じくらいの英語力の学生が多く、プレッシャーを感じずに自分のペースで授業を受けることが出来た。
授業を受ける中で、日本人の学生は座学ではテストの点が高い傾向にあるが、ロシアやカザフスタンに比べてスピーキング力や発話の積極性に差があることを実感した。
私自身も渡航前は英語を話すことに自信がなかったが、完璧な文法にこだわらず、簡単な表現で伝えることを意識した結果、発話に対するハードルが下がり、グループワークも積極的に参加できた。

（4）今後にどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

留学を通して、マレー系や中華系、イスラム系など様々な文化や宗教を持つ人々と生活を共にする環境を肌で感じた。日本人としての視点や自分が無意識に感じている当たり前の価値観を改めて振り返る機会になった。
この経験を生かし、国内でも海外交流をしつつ、留学ではない異なるアプローチで異文化を体験しながら学びを継続していきたい。

YCU 第２クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	**A.H**	**学部・学科**	**医学部・看護学科**
学 年	**4 年**	**派遣国**	**マレーシア**
派遣大学	**アジアパシフィック大学**		
コース名	**第 2Q プログラム　B コース**		
期 間	**2026 年 6 月 28 日～2026 年 7 月 26 日**		

（１）授業や課題、演習はどのような内容であったか。（800 字程度）
（可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい）

授業はリーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの 4 技能を総合的に学ぶ内容であり、すべて英語で行われた。英語を英語で学ぶスタイルであり、他国の友人を作ることができたこともあり、授業中は日本語を使用する機会がほとんどなく、常に英語で考え、理解し、発言することが求められた。授業の進め方自体は日本の英語授業と大きく変わらなかったが、オールイングリッシュの環境で学ぶことで、英語に触れる時間が格段に増え、実践的な英語力を養うことができた。

授業では、学生同士で意見交換を行うディスカッションが多く取り入れられていた。グループは毎回ランダムに決められるため、さまざまな国の学生と交流する機会があり、それぞれ異なる価値観や考え方に触れることができた。英語力だけでなく、相手の意見を理解し、自分の考えを伝えるコミュニケーション能力の重要性を実感した。

特に印象に残ったのは、他国の学生 4～5 人とグループを組んで行ったプレゼンテーションである。プレゼンテーションは 2 回実施され、1 回目は「Social Problem（社会問題）」、2 回目は「Future City 2050（2050 年の未来都市）」をテーマとして、グループでスライドを作成し、発表を行った。異なる文化的背景を持つメンバーと意見をまとめることは容易ではなかったが、英語を共通言語として協力しながら一つの成果物を完成させる経験は非常に貴重であった。

課題は比較的多く、授業内だけでなく授業外での学習時間も必要であった。ライティングでは一定の分量の英文を書く課題があり、自分の考えを論理的に英語で表現する力が求められた。また、宿題としてオンライン教材を活用した学習も多く出題され、継続的な復習が必要であった。さらに、1 か月の留学期間中に 2 回のテストが実施され、日頃から学習内容を定着させることの重要性を実感した。課題や試験への対応は大変であったが、その分、英語を実践的に使用する機会が多く、短期間で集中的に学ぶことのできる充実したプログラムであった。

（2）授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

授業を通して、英語 4 技能（リーディング・リスニング・ライティング・スピーキング）を総合的に向上させることができた。特にライティングでは、IELTS などの英語試験にも対応した論理的な文章構成を学び、序論・本論・結論を意識しながら、自分の意見を根拠とともに分かりやすく伝える書き方を身に付けることができた。リーディングでは、長文を読む際に要点を素早く把握し、必要な情報を効率よく読み取る方法を学んだ。リスニングでは、授業がすべて英語で行われたため、教員や他国の学生の英語を聞く機会が多く、さまざまな国の英語の発音や話す速さに慣れることができた。その結果、細部だけでなく全体の内容を把握しながら聞く力が身に付いた。スピーキングでは、授業中のディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションを通して、自分の考えを英語で伝える力を養うことができた。最初は間違いを恐れて発言をためらう場面もあったが、積極的にコミュニケーションを取る中で、完璧な英語で話すことよりも、自分の考えを相手に伝えようとする姿勢が重要であることを実感した。また、多国籍の学生との交流を通して、異なる価値観や文化的背景を理解しながら意見を交換する経験を積むことができ、英語力だけでなく異文化コミュニケーション能力も向上した。

（3）授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は、自分の英語の発音や文法に自信がなく、うまく伝わらなかったら相手を困らせたり、気まずい雰囲気になったりするのではないかという不安があった。そのため、自分から積極的に話しかけることに臆病になっていた。しかし、実際に授業が始まると、多国籍の学生や教員は、英語の正確さよりも「互いに理解しよう」とする姿勢を大切にしていることを実感した。授業中のディスカッションやグループワークでは、言葉に詰まっても最後まで話を聞いてくれたり、分かりやすい表現に言い換えてくれたりする場面が多く見られた。そのため、完璧な英語でなくても積極的に伝えようとすることが重要であると考えるようになった。留学を通して、英語は正確さだけでなく、相手を理解しようとする姿勢や、自分の考えを伝えようとする積極性が大切であることを学んだ。この経験により、英語でコミュニケーションを取ることへの抵抗感が少なくなり、自信を持って会話を楽しめるようになったことが、自分にとって最も大きな変化である。

（4）今後にどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回の留学で得た経験は、今後の学業や将来の看護実践に生かしていきたいと考える。特に、英語でのコミュニケーションを通して、相手を理解しようとする姿勢が何よりも重要であることを学んだ。この経験から、人と関わるうえで言語の違いは障壁ではなく、その人らしさや個性の一つとして捉えることが大切であると感じた。今後は、看護学で学ぶコミュニケーション技術や異文化理解について主体的に学び、外国人患者を含め、多様な背景を持つ人々に寄り添った看護を実践できる力を身に付けたい。また、英語学習も継続し、医療現場で必要となる英語表現や専門用語を学ぶことで、将来、言語や文化の違いにかかわらず、安心して看護を受けられる環境づくりに貢献したいと考える。

YCU 第２クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	**S.S**	**学部・学科**	**国際教養学部・国際教養学科**
学 年	**２年**	**派遣国**	**マレーシア**
派遣大学	**アジアパシフィック大学**		
コース名	**英語語学研修　B コース**		
期 間	**2026 年　　8 月　　2 日～　2026 年　　8 月　　29 日**		

（１）授業や課題、演習はどのような内容であったか。（800 字程度）
（可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい）

授業は全体的に英語の論文執筆方法やプレゼンテーションの進め方などの実践的な内容でした。４技能で授業が分かれていて writing と reading がまとめて１コマ、listening と speaking がまとめて１コマという構成になっていました。

Writing では論文の書き方から実際に書くまでを学びました。３パラグラフの論文に求められるサポートセンテンスやティーシスステートメントなどの要素を一つ一つ確認していきました。そして印象的な授業としては、グループごとに充てられたテーマに沿ってポイントを整理する回でした。課題では与えられたテーマに沿って１つ論文を書くというものが多かったです。最後のテストでは論題が４つほど与えられてその中から１つを選んで各形式でした。全体的に字数制限はなく、言われた通りの要素がきちんと含まれていれば高得点をとることができました。

Reading では資料を読み込み、グループごとに内容を要約したり、文章で答える質問にどのように返すのかを話し合ったりしました。内容は配られた教科書内の文章や、先生が準備したプリントの内容から出ていました。課題は次の授業で扱う内容の質問に答えてくる形でした。最後のテストでは読み物が２つ与えられ、それぞれに文章や単語で答える問題がついていました。指示語で示すものを当てたり問題文の正誤を当てたりする問題も含まれていました。

Listening では決められた会話や音楽を聴き、その中で言っている内容から質問に答えました。教科書の内容からでる日もあれば、先生が選んだイギリスの曲を聞いて歌詞を当てるというものもありました。答え方も文章すべて書くものから単語でよいものまでさまざまありました。フレーズごとに切られた紙を聞こえた順番に並べ替える活動が印象に残っています。最後のテストでは教科書の内容から会話の穴埋めや文章で答える問題などが出ました。

Speaking ではプレゼンテーションを中心に進めました。最初はテーマごとに考えられるポイントを挙げていき、最後にはそれらをつなげて一つの発表につなげました。授業内で数回模擬的なプレゼンテーションが行われました。グループに分かれてプレゼンテーションの要素名と内容をマッチさせ、さらにそれを順番ごとに並び替える活動が印象に残っています。最後のテストではプレゼンテーションを３つのテーマから選び、ペアで行いました。

（2）授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

論文作成の必須事項やプレゼンテーションの進め方について深い知識が得られました。3パラグラフで論文を書くということ自体あまりない経験であったため、一つ一つの要素が初めて聞くことばかりで学びにつながったと確信しています。3パラグラフにそれぞれ書くことが求められる文章があること、3つのサポートセンテンスのそれぞれの役割なども学び、日本では得られなかった角度での学びにつながりました。

またプレゼンテーションにおいては、スライドの作り方や内容からポイントを選ぶ方法など、基本的な知識が得られました。ペアでの交代時に言わなければならない文章や、2人での作業量の均衡、最初や最後にあいさつや質問の有無を聞くなど新たな視点による知識獲得にもつながったと感じています。また複数回ある模擬プレゼンでポイントごとの達成状況が分かることで、さらなる知識の向上にもつながったと感じています。

他にもリスニングでは聞く前に文章の最初を書いてしまうこと、リーディングでは問題文を先に理解するなどの解き方のコツも学びました。授業全体を通して英語の授業を行うのに求められる進め方等も知識として学びました。

（3）授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前に受けたテストでは、論文の作成方法やプレゼンの進め方が自分の知識のみであいまいな基準しかありませんでした。そのため論文は制限時間目いっぱい使って何度も書き直しをして、プレゼンはひたすらにスライドを作って長々と話していました。そのため論文もプレゼンも少し作るのが億劫になっていた部分もありました。

しかし授業を受けて正しい論文の作り方を学んだことで作業が効率化され、論文を書くことに抵抗が少なくなったように感じました。字数ではなく要素の有無で見られるため単純に自分が使いたい言葉を使えるといった、日本とは違う採点方法も関わっていたと思います。プレゼンに関しても、スライドの少なさに驚きましたが、逆に取捨選択を適切に行う大切さを知ってより本気で取り組めるようになったと感じています。ペア間の仕事量の差やテーマの理解度、話す態度など多角的に判断してもらえる点が私に遭っていたのもあり、プレゼンテーションにもより積極的になれたと思います。

（4）今後にどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今後のゼミ活動において多文化な環境で生きた経験を生かしていきます。3言語が同時に存在し、イスラム教が国民の大半を占める環境だからこそ国家や大学にも様々な配慮が求められていました。ゼミで扱う移民の適応に関する問題にも、国家の積極的関与が求められると考えているためこの事例をもとに、日本がどうあるべきかの議論に用います。学業全体としては、得られた知識をもとにより質の高い論文やプレゼンの作成に努めます。また、英語での授業参加を経たことで身についた4技能を生かして英語で行われる授業にも積極的に参加していきます。現地で仲良くしていただいた先生方の意見から、英語の教員免許取得課程の勉強も意欲をもって取り組みます。

YCU 第２クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	**M.A**	**学部・学科**	**国際商学部・国際商学科**
学 年	**2**	**派遣国**	**マレーシア**
派遣大学	**アジアパシフィック大学**		
コース名	**英語語学研修**		
期 間	**2026 年　8 月　3 日～　2026 年　8 月　28 日**		

（１）授業や課題、演習はどのような内容であったか。（800 字程度）
（可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい）

授業は、初日のテストの結果に応じてクラス分けがなされ、かなり自分に合ったレベルの授業を受けることができた。友人の話を聞くとクラスごとに活動内容がかなり違うようだった。内容としては、Reading Listening Writing Speaking の 4 技能で時間割が組まれており、それぞれまんべんなく学ぶことができる。午前中に 2 時間、午後に 2 時間の授業があり、毎回少量の課題が出た。

Reading ではまず文章の読み方を教わり、時間制限の中で問題を解き、授業内で答え合わせをするという流れで進んでいった。Listening は教科書の音声を聞き、問題を解いていく形式だった。他の３つの技能の授業と比べて Listening の授業は難易度が高いと感じ、実際に私の周りでも同じように感じている人が多いようだった。Writing では、文章の書き方を教わり、実際にエッセイを書き、先生からフィードバックをいただくという流れで進んでいった。一人一人の文章を丁寧に添削してもらえるので、改善しやすかった。Speaking では、毎回グループを組んで取り組む形式で、ディスカッションやプレゼンのトピックが与えられ、それについてクラス内で成果を発表する形で進んでいった。ここでは先生が様々な国の生徒と関われるようにグループを編成してくれるため、国際交流のきっかけとなった。

授業全体を通して和やかな雰囲気で行われ、間違えをあまり気にせず次々と発言が飛び交うクラスだった。私は一か月の短期留学だったが、APU に通っている学生もクラスにおり、大学のことや授業のこと、課題のことについて教えてもらった。

課題の内容としては、最終週までに終わらせるオンライン課題と、次回の授業までに終わらせるエッセイや文章読解が課された。どちらもコツコツ進めることでそこまで大きな負担にはならなかった。

印象に残ったのは、英語の曲に合わせてダンスを踊ったり、英語で伝言ゲームを行ったり、英語のカードゲームをしたりといったアクティビティがほとんど毎回の授業の最初に行われる点で、クラスの仲を深めるきっかけとなった。

（2）授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

私が授業で最も伸ばすことができた技能は Writing だと感じている。3 日に 1 本ほどのペースでエッセイを書き、その都度先生からフィードバックをいただけるので、毎授業ごとに成長を感じられた。今までは話し言葉を書き言葉として使ってしまっていたり、カンマの入れ方が曖昧だったりしたが、文章を書く時のルールを詳しく教えてもらえたため、自信をもって文章を書けるようになった。

また、Speaking の授業を通してプレゼンの仕方や英語でのコミュニケーションを学ぶことができた。プレゼンではスライドを作成したり、ポスターを作ったりし、聞き手の心を動かす話し方を教わった。プレゼンの内容も新たな商品を開発するなどビジネス的な話題が多く、準備の段階でチームメイトとの英語でのコミュニケーションが求められた。ディスカッションをクラスメイトの前で披露する、短い劇をやるなど、ユニークな授業も多く、大変ながらもやりがいのある授業だった。

Reading の授業は文章自体の難易度は少し低めに感じるものの、問いに対して英文で解答する方法を学ぶことができた。

Listening の授業では、題材が日本で扱うような内容とは違い、家族に関するトピック、映画や音楽に関するトピックなど、身近な話題が中心だったのが印象的だった。

（3）授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を通して、様々な国の生徒とかかわることができ、自分の知見を広げることができた。私のクラスには、日本のほかにロシア・カザフスタン・韓国出身の生徒が多かった。雑談としてお互いの国の文化について紹介しあったり、言語を教えあったりするなど国際交流の機会は多かった。

サマーキャンプとして参加している生徒は学習意欲が高く、授業に積極的に参加する雰囲気がクラス内にあったので、私もよい刺激を受けることができた。授業を受ける前は英語を話すことに自信がなかったが、プレゼン発表後の質疑応答やアクティビティなどを通じて即興で英語を話す機会が多く設けられているため、不安が薄れたように感じる。午前と午後で授業を取り持つ先生は違っていたが、どちらの先生の授業も明るく和やかな雰囲気で授業を行われていた。英語で流ちょうに話せなかったり、解答が間違えていたりしても、トライしたことをまずほめてくれて、臆せず挑戦してみようというマインドに変わることができた。

（4）今後にどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

私にとって海外に行くのは初めてだったが、マレーシアでの生活を非常に楽しむことができた。それは私が拙い英語を話したり、相手の言っていることが聞き取れなかったりしても、親切に対応してくれる人が多かったからだと感じる。私自身、最初は英語を話すことに不安を感じることもあったが、実際に英語を使って人とコミュニケーションを取る中で、完璧な英語でなくても、伝えようとすることが大切なのだと学んだ。

この短期留学を通じて、英語をツールとして使う経験を経て、自分には多少の知識はあるものの英語を使う力はまだまだ乏しいことに気が付けた。特に、テストでよい点数を取るための英語とコミュニケーション英語の違いを痛感したので、これからは英語を使うことも

していきたい。また、この留学を通して得た、失敗を恐れずに挑戦する姿勢を今後の生活にも生かしていきたいと思う。

YCU 第２クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	**C.S**	**学部・学科**	**国際商学部・国際商学科**
学 年	**２年**	**派遣国**	**マレーシア**
派遣大学	**アジアパシフィック大学**		
コース名	**English Summer Camp**		
期 間	**2026 年 6 月 29 日～ 2026 年 7 月 24 日**		

（１）授業や課題、演習はどのような内容であったか。（800 字程度）
（可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい）

授業は午前と午後に分かれており、午前はリーディング・ライティング、午後はスピーキング・リスニングを学んだ。それぞれ 2 時間の授業で、1 時間ごとに約 10 分の休憩が設けられていた。授業の進め方はクラスによって異なり、毎回グループを組み替えてディスカッションを中心に進めるクラスもあった。一方、私のクラスは日本の英語の授業に近く、問題を解いた後に先生が解説するという流れが基本であった。

リーディング・ライティングの授業では、文章の読み方や書き方を教わり、それに沿う形で出題された問題を解いた。スピーキングでは、近くの人と意見交換を行い、その内容を代表者が発表する機会があった。また、試験として個人やグループでプレゼンテーションを行う機会もあった。リスニングでは音声を聞いて問題を解いた後、先生が解説をするという形であった。試験は中間と期末の２回あり、どちらも 4 技能すべてが評価対象であった。

授業は全体的に堅苦しい雰囲気ではなく、早押しクイズやゲーム形式のアクティビティなどがあったり、グループで手描きポスターを作成したりと楽しみながら学んだ。

クラスは初日に実施されたレベル分けテストの結果によって決定され、その後 1 か月間は同じメンバーで授業を受けた。クラスによっては同じ国の学生が多く集まる場合もあれば、さまざまな国籍の学生が在籍する場合もあった。また、Summer Camp 参加者だけで構成されるのではなく、以前から語学学校に通っている学生と一緒に授業を受ける形であった。

授業以外でも交流の機会は多く、同じホテルに宿泊している人との交流や休日に開催されるプログラムを通して、多くの友人を作ることができた。月に１回、授業内でイベントが開催されており、私が参加した月では文化交流イベントが開催された。そこでは、各国の学生が自国の伝統衣装を着用したり、ダンスを披露したりするなど、それぞれの文化を紹介し合い、お互いの国への理解を深められる機会が設けられていた。

（2）授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

リーディングの授業では、語彙や文法だけでなく、文章全体の流れを把握する読み方や、必要な情報を効率よく見つける方法などを学ぶことができた。

ライティングでは、提出した課題に対して毎回細かいフィードバックが返却されたため、自分が繰り返し間違えやすい文法や表現の癖を把握し、改善につなげることができた。

スピーキングでは、グループワークを通して意見交換を行う機会があり、英語で自分の考えを伝える力だけでなく、会話を通して文化や価値観の違いについても学ぶことができた。

リスニングでは、授業だけでなくオンライン課題もあったため、英語に触れる時間を十分に確保することができた。

また、授業では 4 技能の学習だけでなく、ジェスチャーや挨拶の仕方など、異文化におけるコミュニケーションについて学ぶ機会もあり、英語以外の知識も身に付いた。1 か月間継続して英語に触れたことで、オリエンテーション時には十分に聞き取れなかった英語も、最終日の修了式では内容を理解できるようになった。

さらに、授業外では海外の友人との会話やチャットを通して、教科書には載っていない日常表現やスラングにも触れることができ、日常会話についての知識を得られた。

（3）授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は、自分の英語力で海外の人とコミュニケーションが取れるか不安があった。しかし、交流を通して、流暢な英語でなくても積極的に話そうとする姿勢が大切であることを実感した。休日のアクティビティでは海外の友人と交流する機会が多く、自分の言いたいことをうまく表現できない場面もあったが、知っている単語やジェスチャーを使うことで意思疎通ができた。間違いを恐れて黙ってしまうのではなく、まずは伝えようとすることが大切であると感じた。

また、日本の文化に興味を持っている人が非常に多いことを知り、自国の文化や習慣について理解を深め、相手に伝えられるようにする必要があると感じた。

さまざまな国の人とのコミュニケーションを通して新しい価値観に触れることができ、英語を話すことで交流の機会がさらに広がることを実感したため、今後も継続して英語学習に取り組みたいと感じるようになった。

（4）今後にどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回のプログラムをきっかけに、今後も継続的に英語を学習し、TOEIC などの資格試験を定期的に受験していきたい。また、授業や日常生活で英語を使って積極的にコミュニケーションを取る機会が多く、堂々と自分の意見を伝えるクラスメイトの姿に刺激を受けた。そのため、読み書きだけでなく、英語で自然に会話ができる力を身につけるために日常的に英語を話す機会を増やしていきたい。さらに、日本や海外の文化についても理解を深め、相手に自国の文化を分かりやすく伝えられるようにし、英語を活用して多様な人々と円滑にコミュニケーションを取れるようにしたい。

YCU 第２クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	**H.N**	**学部・学科**	**理学部理学科**
学 年	**2 年**	**派遣国**	**マレーシア**
派遣大学	**アジアパシフィック大学**		
コース名	**英語語学研修**		
期 間	**2026 年　8 月　2 日～　2026 年　8 月　　29 日**		

（１）授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)
（可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい）

授業はスピーキング＆リスニングの授業とリーディング＆ライティングの二つの授業に分かれていてそれぞれ毎日一コマずつ(二コマの時もある)ありました。内容はレベル別クラスによってかなり違うようでしたが、私の所属していたレベル 5 の授業について書きます。S＆L のクラスでは、毎日先生がトピックを提供、ランダムのグループ分けをしてくれたので、そのグループでトピックについてディスカッションをして内容について理秋を深めるとともにそのテーマに沿った軽いプレゼンテーションを授業終わりにかなりの頻度で行っていました。そのほかに、事前にテーマが与えられていてグループもあらかじめ決めた状態で 2、3 日後に発表の機会が設けられている 1 班 10 分程度の形式的なプレゼンも全部で 4 回ありました。長いプレゼンのテーマは、1 回目は拒食症と過食症について、2 回目が自分たちで飲食店を出店するとしたらどのような店を出すかについて、3 回目は自分たちで現代社会の問題点についてテーマ設定をしてそれについて問題点や解決策を提示する、4 回目は最終プレゼントして与えられた 4 つのテーマから自分たちの班で一つ選んでその事象についての良し悪しを発表するというものでした。リスニングでは教科書の内容に沿ったプリントのコピーが配られ、実際に英語圏で日常会話をしているような人たちの会話を聞き取り内容把握し質問に答えたり TF クイズに回答したりするものが多く、自分で回答を作成後にグループで意見交換をするという流れが基本でしたが、内容はかなり難しかったです。L＆R のクラスでは、先生の説明に沿って文章を書く際の構成を学んだりライティングのテーマに沿った単語の意味を班で調べて模造紙に書いて理解を深めるようなグループワークを行ったりしました。文法を習うような座学もほんの一部ありましたが、基本的には実践的な内容が多かったです。私たちのクラスのライティングの文章構成は、5 パラグラフで 1Introduction, 2Body1, 3Body2, 4Body3, 5Conclusion で書きました。段落ごとに日を分けて習いました。文章のテーマは、交通渋滞や犯罪、マガジン、色についてなどで書きました。また、グループに分かれて兄弟構成と性格の関連性や英語を学ぶ意味などについて話し合う機会もあり、明確に 2 つの授業の境界があるという感じでもなかったです。

（２）授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

とにかく授業で扱う語彙は私がもともと知っていた単語をはるかに超える分野のものであったので、たくさんの単語を新たに知れた。例えば、肥満や痩身、過食や拒食またそれに関連する専門的な単語や、様々な犯罪の名前や定義、それに関連する単語などが印象に残っています。また、唯一行った座学で仮定法の復習を扱って現在形や過去形、大過去の使い方を整理することができました。基本的に知識を身に着けるというよりも実践して実践力を身に着けることに重点を置いた授業に感じたので、基礎力がない自分にとってはとても苦労することが多かったです。

（３）授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は、自分自身の英語力に慢心しており、また、英語をそこまで重点的に学習する意味を感じていませんでした。これまでの日本での英語学習の経験から、英語ができるということは、リーディングや形式的なリスニングのテストで高い点数を取ることだという認識が、自分の中で強くありました。

しかし、実際に一か月間、すべて英語で行われる授業を受けてみると、その認識は覆されたといっても過言ではありません。日常会話をすべて英語で行う環境に身を置いたことで、世界の人々とつながるためには、英語を話すことや聞き取ることが大前提であり、そのうえで、英語を用いて何を学ぶのか、どのようにコミュニケーションを取り、多様な人々とつながっていくのかということが、さらに重要な、その先の目標なのだと知ることができました。

また私は、自分自身の英語力の不足を大きく痛感しました。同時に、このまま将来何も努力せずに狭い世界にとどまり続けることは悔しいと強く感じました。この経験を通して、これからの英語の学習方法だけでなく、英語を通じた人とのつながりについての意識も大きく考え直すきっかけとなりました。

（４）今後にどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

せっかくいただいた機会なので、これからの学習姿勢に生かしていきたいという気持ちは強く持ちつつも、今後どのように英語を学習してまたそれを用いて実践する機会を自分で作り出していくのかという具体定期な計画はまだ立てられていない状況です。現在私が意識的にしていることは、マレーシアでの英語感覚を忘れないように日常的に考えていることを英語に変換して一人で話してみる練習や、ＳＮＳのショート動画で英語の文章を声に出して読んでみたりシャドウイングしてみたりすることです。今後将来の夢なども踏まえて自分自身の向かっていきたい方向性を考慮して行動に移していければと思います。

YCU 第２クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	**S.F**	**学部・学科**	**データサイエンス学部 データサイエンス学科**
学 年	**2**	**派遣国**	**マレーシア**
派遣大学	**APU**		
コース名	**英語語学研修**		
期 間	**2026 年 8 月 2 日 ～ 2026 年 8 月 30 日**		

（１）授業や課題、演習はどのような内容であったか。（800 字程度）
（可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい）

最初の授業では、いきなりノリノリの曲に合わせて、ダンスを踊らされて、理解に苦しみました。ただこれのおかげで緊張がほぐれた感じもします。授業が始まる前、自分のレベルを確認するとともに、クラス分けを行うためのテストを受けました。テストの内容としては、そこまで難しいと感じませんでしたが、ライティングはトピックを好きに選べて、自分のレベルに合わせて書く分量を選べました。このライティングで、結構差が出たようで、クラス分けに重要だったみたいです。内容としては大きく、リーディング、スピーキング、リスニング、ライティングに分かれており、一日にこの中から二個程授業で取り組むといった感じでした。自分のクラスは、７個のレベルに分かれるうちの上から 2 番目のレベル 5 でしたが、初週は、アイスブレイキングをしたり、エッセイの書き方について一通り習ったりしました。ただ、そのあとは、何度も繰り返しプレゼンをするか、エッセイをひたすら書いていくというスタイルに移っていったと感じます。そこに、長文や長めのリスニングがたまに挟まれるといった感じです。授業は一日 4 時間が基本で、週に二回くらい、6 時間やる日がありました。午前は一限だけです。2 時間やりました。朝、自分たちはホテルから毎日バスが出ました。時間は基本 8:30 前後でした。個人としては結構早起きでした。先生は基本一か月変わりませんでした。個性的な先生ばかりで、どの先生も楽しい授業だったと感じます。課題は出たり出なかったり、量も多い日もあれば、今日これだけ！？と感じる日もありました。周りの話を聞くと、先生やクラスによって量や難易度が全然違ったので、ケースバイケースで考えたらいいと思います。授業全体としては、あっという間に感じることがほとんどでした。きっと普段感じることのない量の英語を浴びていたからだと思います。この環境は今思えばとても貴重で、贅沢だったなと感じますし、日本に戻ってきてこの環境が手に入らないのが残念です。

（2）授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

エッセイの書き方を最初に学んで、そこから何度もライティングの演習をしたので、書き方の手順はかなり身についたと思います。統計的な話やバックグラウンドなどを用いて、読み手をひっかけるフックというものを書いたり、主題を支える文を書いたりしたことが特に印象に残っています。また多くのプレゼンの実践を通して、あいさつや、パートナーへのバトンタッチなどの、「プレゼン中に意識すべきこと」をたくさん学べました。目線をはじめ、日本語でプレゼンをするときにも役に立つことを学べました。他にも新たな気づきもありました。今まで受験勉強などを通して、語彙においてはそれなりの自信がありましたが、その程度では、授業や会話においてどれだけ不十分なのかを実感しました。たくさんの新しい語彙に触れることができたと強く感じています。 それから自習として、授業中に配られたプリントの単語や表現を中心に、空き時間、寝る前等の時間を使って復習をしました。リスニングにおいて、授業で扱った内容の中には、自分にとってかなり難しい問題もあり、加えてロシア人の友人たちは何食わぬ顔でこなしているので、とても刺激になりました。長いストーリーを聞いて、問題を解いたり、ディスカッションをしたりするという経験はなかったので、とても新鮮でしたし、力がついたと感じています。

（3）授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は、正直かなり不安でした。自分の中ではかなり高いレベルのクラスに配属されたと感じていたので、授業内容についていけるのかなと思いました。また、国籍関係なくクラスメイトと仲良くなれるかも不安でしたし、ましてや他国の友達なんて作ることは難しいのではないかと感じていました。ただ、後半の二週間では、上り調子に友達の輪が広がっていって、日本人だけでなく、クラスの中や、廊下などで会った際に、あらゆる国籍の人とハンドシェイクをしたり、コミュニケーションを取ったりするようにまで親交を深めることができました。昨今の世界情勢はきっと、あまり良い状態とはいえません。それこそロシアというと、どうしてもニュースの影響で、戦争というイメージが、マレーシアを訪れる前からありました。しかし、クラスで授業を受けている時は、英語という共通に話すことのできる言語で、同じ内容の授業を受けたり、笑いあったりすることができました。その時私は、世界情勢は悪くても、こうやって同じ言語で、同じくらいの年齢の仲間で、同じ屋根の下授業を受けることができているって本当に素晴らしいことなのだなと感じました。それこそ、戦争なんて争い、本当に馬鹿馬鹿しい話なのだなと思いました。先生をはじめ、多くの仲間と、今でも連絡を取り合っています。また、自分とは異なる国籍の人達は、自分がこれまで体験してきたものとは違う文化をそれぞれ持っています。そういったカルチャーの違いからも、刺激がたくさんありました。カルチャーショックというやつです。ロシアの人達をはじめ、他国の友達は、皆積極的でした。授業のディスカッションにおいても、プライベートでもです。きっとこの積極性が、私にとって良い影響となり、キャンプの後半に人脈を増やせた一つの要因になったのだと思います。充実したサマーキャンプとなりましたが、そのようにこのキャンプを終えられたのも、クラスメイトをはじめ、周りの環境に恵まれたからだと感じます。本当に感謝したいです。

（4）今後にどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

このサマーキャンプで得ることのできた、英語をはじめ、あらゆる国の言語や文化に関する知識、そしてマインドを普段の生活にうまく落とし込んでいきたいと考えています。言語の知識に関しては、大学の授業内外問わず、学習のレベルを高めることができると思います。リーディングでは語彙、リスニングでは聞く力、スピーキングでは得られた綺麗で流ちょうな発音や表現、身振り手振り、ライティングではエッセイの書く手順をはじめ、表現等を活かせると考えています。せっかく英語ばかりに触れられるとても良い環境に身を置き、英語のスキルを向上させられたので、英語の学習は中断させたくありません。資格勉強を引き続き行うとともに、英語を使った友達とのコミュニケーションを楽しみながら続けていこうと考えています。